

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
専門学校 ちば愛犬動物 フラワー学園	平成11年3月29日	西村 壽	〒260-0021 千葉県千葉市中央区新宿2-14-13 (電話) 043-242-0511																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人 中村学園	昭和41年8月15日	中村 洋子	〒260-0021 千葉県千葉市中央区新宿2-14-3 (電話) 043-242-0467																								
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																						
文化・教養	文化・教養専門課程	動物管理科動物飼育コース		平成28年文部科学省告示 第45号																							
学科の目的	本校は、教育基本法および学校教育法に基づき、動物の飼育看護及び植物の育成に関する知識、技能を修得させると共に、動植物の愛護の精神に深い理解を持つ、生命を慈しむ人間教育を行い、広く社会に貢献させ、国際感覚に富む教養を備えた社会人を育成し、社会、業界に寄与することを目的とする。																										
認定年月日	平成29年2月28日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2	昼間	1841時間	437時間	588時間	816時間	0	0																				
単位時間																											
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
460人	298人	1人	30人の内数16人	66人の内数49人	96人の内数65人																						
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 A(優)、B(良)、C(可)、R(認定)、F(不認定)とし、定期試験、出席率、授業態度等を総合的に評価する。																							
長期休み	■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月26日～1月5日 ■春季:3月21日～4月10日		卒業・進級条件	①その年度の履修単位を取得すること。 ②各学年昼間部は年間800時間以上、夜間部は年間450時間以上出席すること。 ③卒業判定に関しては成績並びに出席状況を卒業判定会議で確認し、卒業要件を満たした者を卒業と認める。																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任による学生個人面談、カウンセラーによるカウンセリング、入学前保護者会や年度末保護者会の実施。		課外活動	■課外活動の種類 ・小学生対象お仕事体験のイベントスタッフ ・宿泊研修、その他ボランティア活動等  ■サークル活動: 有																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) トリミングサロン、ペットショップ、動物病院、動物テーマパーク  ■就職指導内容 学科専任の就職指導担当を配置し、個々のカウンセリングを行う。就職ガイドやビジネストレーニングのビジネス教養科目、年数回の就職セミナーにて就職指導を行っている。 ■卒業者数: 155 人 ■就職希望者数: 150 人 ■就職者数: 141 人 ■就職率: 96.7 % ■卒業者に占める就職者の割合: 91.0% %  ■その他 ・進学者数: 0人 ・アルバイト: 0人 ・結婚: 0人 ・入院等体調不良: 0人 ・帰国: 1人 ・非就職: 5人  (平成 31 年度卒業者に関する 令和2年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報)  <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AIKスモールペットアドバイザー</td> <td>③</td> <td>38</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 ・特になし				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	AIKスモールペットアドバイザー	③	38	24												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
AIKスモールペットアドバイザー	③	38	24																								
中途退学の現状	■中途退学者 26 名 令和2年4月1日時点において、在学者320名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者294名(令和2年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 ・進路変更 ・経済的に困難である為 ・身体的または精神的な理由により学園生活が困難である為		■中退率 8.1 %																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ・特待生制度:1年次は書類審査と面接、2年・3年次は年間成績・出席率など1年間の総合的な成績結果、学習意欲や貢献度などを元に判定し授業料の一部を減免。 ・ひとり暮らし応援制度:親元を離れてひとり暮らしをする学生に対し、2年進級時に家賃の一部として補助金を支給。  ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科のホームページURL	<a href="http://www.aik.ac.jp/">http://www.aik.ac.jp/</a>																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ・教育課程編成委員会を年度に2回開催し、外部企業委員と次年度のカリキュラム改善等の意見交換をする。
- ・各コースに特化した専門部会を年2回開催し、企業からの派遣講師を含めてカリキュラムに関する意見交換をする。
- ・ペット美容&ショップ、動物病院、飼育・訓練、乗馬、フラワービジネス等、動物及び植物関連の業界の最新動向を調査分析し、各業界の第一線で即戦力として通用する人材育成プランや教育方法を研究する。
- ・現行カリキュラムの評価を行い、現代社会に適合した授業科目の改善案や新規導入案を提言する。
- ・業界に関する授業を導入し、動植物企業より技術者、人事担当者等を招いて授業を展開する。
- ・動植物企業と提携した外部イベントとインターンシップ活動を連携させ、幅広い視野と思考を身に付ける環境を設ける。
- ・リアル実習と称し、各コースの専門性と深く関連する事業所にて実践的な実習授業を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

委員会は校長又は副校長により召集され、教科担当の責任者から現行カリキュラムの説明と次年度へ向けての改善提案に対して、企業等の委員からの助言や修正意見等の集約を図る。それらの意見を参考にマネージャー会議で審議し、職員会議で説明して、校長又は副校長が次年度カリキュラム等改善策として決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月1日

名前	所属	任期	種別
松原 賢	一般社団法人Do One Good 理事	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	①
内田 友賀	一般社団法人ナチュラルドッグスタイル 理事	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	①
祖一 俊介	株式会社AHB	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	③
小林 正希	Dear Children 株式会社 取締役 副社長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	③
郷原 弘己	MerryGo有限会社千葉ライディングパーク 会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	③
細田 信幸	専門学校 ちば愛犬動物フラワー学園 顧問	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	
千葉 山	専門学校 ちば愛犬動物フラワー学園 副校長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	
北 和樹	専門学校 ちば愛犬動物フラワー学園 学務室長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年度内に2回開催(原則、毎年9月・3月)

(開催日時)

第1回 令和2年9月17日 10:00～12:00

第2回 令和3年3月10日 10:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- ・議案の中で出ていた専門演習(選択)の今後の在り方について検討してきた結果、次年度より選択とせず、それぞれのコースに合った科目を落とし込みより学生のニーズに合ったカリキュラムを組むように変更した。
- ・議題の中で提案があったドッグプレイニングについて今後授ドッグトレーナーコースの授業内に組み込むよう変更した。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習、演習等において実践的かつ専門的な能力を育成するため、産学連携においては最新の理論及び技術を積極的に導入している企業との連携を基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

講師業務委託書と契約時間割に基づいて、各専門分野の実習授業等(プロトリング・ドッグトレーニング・しつけトレーニング・キャットトリミング・騎乗トレーニングなど)を企業より派遣の講師が担当する。実習授業での技術試験や筆記試験、平常点を総合して各科目ごとにA(優)、B(良)、C(可)、F(不認定)の評価を実施する。週単位での授業内容確認と、反省における打ち合わせを担当教員、講師間で行う。また、年に2度、講師会議を開催し各専門分野の分科会を実施し授業運営方法、内容について共有、議論する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な4科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
グルーミング実習 動物管理実習	前期においてはプードルのケネル&ラムクリップの習得を目指す。ブラッシングからシザーリングまでの作業を反復練習する事によって、確実かつスピードのある技術を身に付ける。後期においては犬種によるクリッピング、シザーリングの違いについてデモを通して学び、実際に作業する事によって身に付け、理論から応用までを学ぶ。	ペットハウスミミ
ドッグトレーニング	動物福祉に基づき犬と楽しく安全に暮らせるような正しい犬の飼い方とマナーを身に付ける。家庭犬のしつけ及び訓練等に必要な基本的知識・技術・経験を身に付ける。犬のしつけやトレーニングを通し、「観察力」「分析力」「行動力」を身に付ける。	WITH DOG
キャットグルーミング	猫のグルーミング理論を学びながら、猫の扱い方、グルーミングの基礎知識を得た上で、多くの猫のグルーミングを行い、一人でグルーミングができるように実技を学ぶ。	有限会社キティボックス
騎乗トレーニング	乗馬の基礎の修得 馬の動きに対する知覚力を身につける。馬とのコミュニケーションのとり方、マナー及び馬との信頼関係を築く。	MerryGo有限会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

・学校研修については当校の教育理念である「動植物を愛し心豊かな社会づくりに貢献できる人間の育成」を根本とし、パートナーアニマルの健全な生活環境、万全な健康管理、本来の美しさとしっかりとした躰を確立する為、また育成管理している植物の自然美を最大限に引き出す為、年度初頭に各チームが年間研修計画を立て、技術的な内部研修や専門業界団体が主催する外部セミナー等の受講を推進し、更なる技術と指導力の向上を図る。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

○ドッグトレーニング研修

対象:ドッグトレーナーチーム1名 ・内容:犬歯研修 ・期間5/3

BASE Dog Training schoolによる研修

○ドッグトレーニング研修

・対象:ドッグトレーナーチーム1名 ・内容:ドッグトレーニング研修 ・期間:5/26、11/5、11/10

・一般社団法人優良家庭犬普及協会による研修

○猫の遺伝学に対する研修

・対象:キャットプロチーム2名 ・内容:猫遺伝学に対する研修会 ・期間8/17

・TOKYO CAT FANCIERSによる研修

○動物取扱責任者研修

・対象:アニマルケアチーム1名 ・内容:動物に関する取扱い及び法令に関する研修 ・期間:10/25

・千葉県動物保護指導センターによる研修

○トリミング研修

・対象:トリマーチーム1名 ・内容:海外のトリミングに関する研修 ・期間:6/4~5

・Dog Salon エルによる研修

○ホースプロ技術・指導研修会

・対象:ホースプロチーム4名 ・内容:競技会に向けての学生指導方法 ・期間:7/10、12/5

・MerryGo有限会社との連携による研修

② 指導力の修得・向上のための研修等

○ビルディングレジリエンス研修

・対象:全職員 ・内容:働き方改革の研修 ・期間8/1

・ラーニング・マスターズ(株)による研修

○学生指導研修会

・対象:就職室、ドッグトレーナーチーム4名 ・内容:就職に関する学生指導方法の研修 ・期間:2/27・2/28

・株式会社ビーコンラーニングサービスとの連携による研修

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

○技術・指導研修会

- ・対象:トリマーチーム1名 ・内容:犬の健康学研修 ・期間:9月予定
- ・BESE Dog Training Schoolによる研修

○ドッグトレーニング研修

- ・対象:ドッグトレーナーチーム1名 ・内容:ドッグトレーニング研修 ・期間:10月予定
- ・一般社団法人一般家庭犬普及協会による研修

○トリミング研修

- ・対象:トリマーチーム1名 ・内容:海外のトリミングに関する研修 ・期間:10月予定
- ・Dog Salon エルによる研修

○技術研修会

- ・対象:キャットプロチーム1名 ・内容:猫の健康維持の為の研修 ・期間11月予定
- ・Japanese Society of Feline Medicineによる研修

○動物取扱責任者研修

- ・対象:アニマルケアチーム1名 ・内容:動物に関する取扱い及び法令に関する研修 ・期間:11月予定
- ・千葉市動物保護指導センターによる研修

○ホースプロ技術・指導研修会

- ・対象:ホースプロチーム4名 ・内容:競技会に向けての学生指導方法の研修 ・期間:11月予定
- ・MerryGo有限会社との連携による研修

② 指導力の修得・向上のための研修等

○LIFOセミナー

- ・対象:全職員 ・内容:自己理解に関する研修 ・期間9/8
- ・株式会社ビーコンラーニングサービスによる研修

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

・学校関係者評価委員を年度に2回開催し、企業人、学識経験者、卒業生等からの第三者視点より学校運営の評価を行い、客観性、透明性の高い健全な学校運営を継続することを目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校の理念・目的・育成人材像</li><li>・学校における職業教育の特色</li><li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想</li><li>・学校理念・目的・育成人材像・特色・将来構想等の学生・保護者等への周知</li><li>・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けての方向性</li></ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"><li>・目的等に沿った運営方針の策定</li><li>・運営方針に沿った事業計画の策定</li><li>・運営組織や意思決定機能の明確化、有効性</li><li>・人事、給与に関する規程等の整備</li><li>・教務、財務等の組織整備等の意思決定システムの整備</li><li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制の整備</li><li>・教育活動等に関する情報公開</li><li>・情報システム化等による業務の効率化</li></ul>

(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等の策定</li> <li>・教育理念、育成人材像の業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の明確な確保</li> <li>・学科等の体系的なカリキュラムの編成</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)の体系的な位置づけ</li> <li>・授業評価の実施・評価体制</li> <li>・職業教育に対する外部関係者からの評価</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準の明確化</li> <li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけ</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員の確保</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員の確保をする等のマネジメント</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の育成等資質向上のための取り組み</li> <li>・職員能力開発のための研修等</li> </ul>
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上に向けた取り組み</li> <li>・資格取得率向上に向けた取り組み</li> <li>・退学率低減に向けた取り組み</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価の把握</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握した学校の教育活動の改善への活用</li> </ul>
(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制の整備</li> <li>・学生相談に関する体制の整備</li> <li>・学生に対する経済的な支援体制の整備</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制</li> <li>・課外活動に対する支援体制の整備</li> <li>・学生の生活環境への支援</li> <li>・保護者との適切な連携</li> <li>・卒業生への支援体制</li> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組み</li> </ul>
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育上の必要性に十分対応するための施設・設備の整備</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等についての十分な体制</li> <li>・防災に対する体制の整備</li> </ul>
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正な学生の募集活動</li> <li>・学生募集活動における教育成果の正確な伝達</li> <li>・学納金の妥当性</li> </ul>
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的な学校の財務基盤の安定性</li> <li>・予算・収支計画の有効性、妥当性</li> <li>・財務についての適正な会計監査</li> <li>・財務情報公開の体制の整備</li> </ul>
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善</li> <li>・自己評価結果の公開</li> </ul>
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献、地域貢献</li> <li>・学生のボランティア活動の奨励、支援</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等の積極的な実施</li> </ul>
(11)国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受け入れ・派遣についての戦略</li> <li>・留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等における適切な手続き等</li> <li>・留学生の学修・生活指導等についての学内における体制の整備</li> <li>・学修成果が国内外で評価される取り組み</li> </ul>

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況  
 ・外部委員より指摘のあった3-3について動物看護科のみで作成されているカリキュラムツリーを、動物管理科、植物管理科に於いても作成することを検討。  
 ・外部委員より指摘のあった卒業生の支援体制に関して卒業生の動向をより多く確認できる体制を強化し、就職先の企業と連携を図っていくこととした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年4月1日

名前	所属	任期	種別
安部 喜方	株式会社花門フラワーゲート 専務取締役	令和2年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
松原 賢	一般社団法人Do One Good 理事	令和2年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
高橋 岩雄	公益社団法人千葉県獣医師会 常務理事	令和2年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
倉本 佳郎	株式会社ベイエフエム 東京営業部	令和2年4月1日～令和3年3月31日(2年)	学校関連企業
長谷川 大	株式会社ニッセイアド	令和2年4月1日～令和3年3月31日(2年)	学校関連企業
黒川 智洋	株式会社スワット 代表	令和2年4月1日～令和3年3月31日(2年)	学校関連企業
富田 祥史	卒業生代表	令和2年4月1日～令和3年3月31日(2年)	卒業生
船倉 千代子	近隣住民代表	令和2年4月1日～令和3年3月31日(2年)	近隣住民

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) 公表年月日 2021年4月1日

URL: <http://www.aik.ac.jp/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

・定期的な企業訪問を実施して学校の現状報告、新設コースや新規授業等の情報提供をすると共に、学校概要と就職関連情報が一体となった刊行物を動植物企業に配布し学校運営の現状を把握していただく。  
 ・ホームページにて各情報の公開を行う。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学園の経営方針、学校の教育目標、学校の歩み、所在地、連絡先
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、学校行事、学生数、退学率
(3) 教職員	教職員数、講師数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	進路指導、卒業後の進路、主要検定合格率
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備、SAM活動(授業外の学生活動)
(6) 学生の生活支援	遠隔者支援、アパート斡旋、危機管理
(7) 学生納付金・修学支援	納付金に関すること、就学支援金、授業料免除、奨学金
(8) 学校の財務	学園の財務状況
(9) 学校評価	自己評価の結果、学校関係者評価の結果、改善方策
(10) 国際連携の状況	留学生受け入れ
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.aik.ac.jp/>

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.aik.ac.jp/>

## 授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 動物管理科 動物飼育コース) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	日 : 令 和 2 年 7 月	兼 任	
○			犬学	犬体名称、用語の理解。 畜犬団体による形態、用途によるグループ分けを理解する。 実際に犬種を観察しスタンダードを理解し特徴、性質を知る。	1通	28	1	○			○		○		
○			ネコ学	猫の生き物としての理解を深め、基本的知識を身に付ける。	1通	28	1	○			○		○		
○			愛玩動物飼養管理論	1. 動物の愛護と適正飼養に関する専門的指導員を養成すべき社会的必要性の高まる中、これに応えられる精神、知識、技術を身につけるための学習をする。 2. 日本愛玩動物協会の愛玩動物飼養管理士(2級)の教本に基づき、動物愛護法、適正飼養管理について学び習熟する。 3. 受講学生全ての認定試験合格を目指して学習する。	1通	41	2	○			○		○		
○			野生動物学	野生動物から家畜、愛玩動物が作られてきた。この全ての祖先となった野生動物の生理、生態を知り、作られた動物達の飼育・繁殖の基本を知りより良い管理法を探る。	1通	56	3	○			○		○		
○			水生生物学	飼育器具の正しい使い方と働きを学び、魚種に合った環境作りができるようにする。さらに、日々変化する水槽内環境を理解し、対応できるようにする。	1通	56	3	○			○		○		
○			ペットフード概論	・ペットフードのアドバイザーとして、その栄養学の基礎から販売まで、お客様対応に必要な知識について理解する。 ・また、本講座では、ペットのコンシェルジュ(お客様相談Q&A等)として応酬話法も模擬体験し、ペットに関するお客様相談に活かす。	2前	26	1	○			○		○		
○			ペット健康管理学	動物における健康管理について総合的に学習する。	2通	28	1	○			○		○		
○			ペット業界論	現状のペットショップの内容と将来取り入れなければならない内容を把握し、日本のペットショップの仕事や歴史、しくみを理解する。海外との比較も検討し、将来のあるべきペットショップについて勉強していく。	2通	28	1	○			○		○		



○		選択ゼミ (野生動物ゼミ・ペットショップゼミ)	1年時に身に付けた知識をさらに向上させるため、専門分野を深く追及する	2後	45	3		○	○	○					
○		PSG保護譲渡指導員&ペットパティシエ	PSG認定保護譲渡指導員の取得。並びにペットの為の食育を学ぶ。	2通	168	11		○	○						○
○		PSG小動物飼養販売管理士	PSG認定「小動物飼養販売管理士」資格の取得を目的として、動物愛護法から動物の生理生体及び医療までの幅広い知識を習得する。	2前	36	2		○	○						○
○		ペット栄養管理士	ペット臨床栄養学を通して、ペットの栄養に関する知識の普及と指導実践者として活躍出来る知識を習得する。	2後	45	3		○	○						○
○		小動物演習	鳥類、ほ乳類、爬虫類、両生類の扱い方、保定方法を身に付け、トリ雛の育て方や魚の梱包方法などを学習する。	1通	168	11		○	○						○
○		小動物演習2	1年次に身に付けた基本技術をさらに向上させ、ペットショップ等で活躍できる知識を身に付ける。	2通	81	5		○	○						○
○		猫演習	猫の生体の基本的な知識を学ぶ。PCの世話、健康チェックをすることで、生体に対する責任や猫の扱い方を学ぶ。	1後	45	3		○	○						○
○		動物管理実習	実際に小動物を扱いながら健康管理・飼育方法について学ぶ。 それぞれ生態系の異なる動物に対しての接し方・環境・エサについて学ぶ。 実際に動物を扱うことで命の大切さ・命を扱う責任を感じてもらう。	1通	168	5			○	○					○
○		動物管理実習2	120種300匹の小動物・爬虫類・両生類を実際に扱いながら飼育管理・健康管理・生態系について学ぶ。AIKスモールペットアドバイザーライセンス取得の為の知識も学ぶ。	2通	168	5			○	○					○
○		PDケア&トレーニング	犬の飼育管理方法および犬に関する基礎知識・トレーニングを通じ犬について深く学ぶ。クラスを半分にし犬舎作業班と座学・トレーニング班に分ける。	1通	162	5			○	○					○
○		グルーミング実習	・犬種別の基本的なグルーミングの確認・練習 ・シザーの持ち方・使い方を学ぶ ・グルーミングにおいて必要な病気・ケガ等の知識習得	2前	84	2			○	○					○
○		選択実習 (グルーミングor乗馬トレーニング)	・グルーミングの更なる技術を習得 ・大動物である馬にふれあい性質・特徴を知り日常ケアを学ぶ	2後	84	2			○	○					○
○		業界インターンシップ	将来、動物業界に従事し活躍する為に動物業界現場での実務を体験する。実体験によって自己の力と意欲を自覚し、就職活動に役立てることを目的とする。	2後	100	3			○	○					○

○		パソコン	情報処理に関する基礎的な内容を取り扱う。今まで漠然と判断されてきたコンピュータやインターネットに関する基礎知識とスキルを総合的に学習する。授業はネット利用のマナーの習得・情報検索・Word文書作成・Excel表計算を講義と演習を組み合わせで実施する。	1前	26	1	○		○	○
○		ビジネストレーニング	ビジネスで必要なマナー全般を学ぶ。①職場で仕事をする上で良い人間関係を築くコミュニケーション②場に合った敬語の使い方③お客様への感じの良い対応④気持ちを伝えるお礼の手紙⑤仕事内容を伝える文書⑥仕事を手際よく進める為に必要なスキルをテキストとワークの実践から、実際の仕事に役立つように学ぶ。	1後	17	1	○		○	○
○		就職ガイド2	動植物業界で求められる人材の育成。今後始まる就職活動に向けての必要な知識を身につけ、キャリアプランの構築を行う。	2前	19	1	○		○	○
○		自己理解&就職ガイド	個人が協調しあう「社会」にでるために、まずは自分自身を知る自己理解が重要です。この自己理解がしっかりできていれば、自身の進むべき方向性が把握でき、他者との協調がよりスムーズになります。そこでこの科目では下記3点を目的とし、1年生前期で自己理解を深めます。①自己理解の3つの方法を身につけ、人間力の土台となる自己理解の能力と自信を高める。②自分の個性について、より広くより深く理解する。③知識、能力面を含めて自分自身に自信を持って語るための自己分析シートを作成する。	1通	28	1	○		○	○
○		コミュニケーション	コミュニケーションスキルを高めることを目的とし、傾聴や共感の手法について学ぶ。	1通・2通	28	3	○		○	○
合計			26科目	1763単位時間(85 単位)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
「卒業要件」 ①その年度の履修単位を取得すること。 ②1年次・2年次、各800時間以上、卒業時に計1700時間以上出席をしていること。		1学年の学期区分	2期
「履修方法」 全科目必修		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。